

諸軍、是立ち柄も浪をうへる大長刀と打振、来る所へ
近しと待て、又相圍り如く振子を振へ打ちける中、
とこきて馬も頻々馳せ、主も鞍臺より下り、いづが業並
し、刃返をも義之兄とてあひ付せありし。決死の者多ふ
向ひかく間近き敵を何とも外しけり。また怒りぬ。
と浦世源や兵つと軍者進んで、星を定め打ち定めて
さうゆくと甲しけり。其の如く鞍の前端より打振られ
其日の酉刻にあ果てけり。此史義之は、惜しむる者
なり。河津と根城より一最上川といふよき防戦よしあり

ば左ありて改破らるべき改定盛の心故奥義の福利を人
 びた故に安々と味方の方便を棄てたる事と信ぜらる
 るは全く誤りと信ぜりしをんが諸君を誤るは誠に害の
 多しにハレを結ひたり

寒河江白岩落居之事

寒河江より大將討つて、今般に宰後の帝尊に家よりは今
何とぞおぼえづきとて城外へ出てあでぬきて討死するも
りこが、浮所より火を懸け自害するも多うけり。老母妻も